

令和3年度第1回審議会

日 時	令和3年7月29日（木） 13時30分から15時00分まで
場 所	わかくさ・プラザ 中央公民館2階ギャラリー
出席委員	大坪博子、北村房子、櫻井寛和、高井伸穂、長尾富美雄、原田峻平、深川寛治（計7名）欠席：白木亨
出席職員	山田基盤整備部長、大野基盤整備部参事 水道課 篠田課長、塚原 下水道課 船戸課長、清水、那須（計7名）
傍聴者	なし

1 会長あいさつ

（関市上下水道事業経営審議会規程第3条第1項の規定により、会長に岐阜大学教育学部助教の原田峻平氏を、副会長に関市自治会連合会副会長の櫻井寛和氏を選出した）

2 議事

(1) 事業状況

ア 水道事業の現況

イ 水道事業会計の予算

ウ 下水道事業の現況

エ 下水道事業の予算

(2) 審議事項

ア 公共下水道事業・農業集落排水事業経営戦略について

司会 本日は、今年度1回目の審議会となりますが、会議の内容といたしましては、資料の表紙にございますように、上下水道事業の現況及び令和3年度予算についてご報告をさせていただきます。その後、公共下水道事業及び農業集落排水事業の経営戦略について審議をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

会長 それでは、議事に入ります前に、委員の8人中7人が出席していただいておりますので、審議会規程に定める会議の開催要件（委員の過半数の出席）を満たしていることを報告いたします。ただいまから、議事に入ります。最初に、事業の現況、予算状況について、お願ひします。

< 上下水道事業の現況、予算報告 >

（篠田課長が令和元年度の水道事業の現況・令和3年度の予算について説明）

ポイント：有収率は63.82%、100%に満たない分は漏水等が原因（現況）

資本的収支の不足分は収益的収支の利益及び内部留保で補填（予算）

(船戸課長が令和元年度の下水道事業の現況・令和3年度の予算について説明)

ポイント：有収率は70.07%、原因は雨水が汚水管に流入する不明水が原因（現況）  
不明水については、調査してマンホールの修繕をしている。  
資本的収支の不足分は収益的収支の利益及び内部留保では不足するため、一般会計からの補填で対応（予算）

(質疑応答)

会長 説明が終わりましたので、質疑のある方は、挙手の上、発言をお願いします。

委員 4ページの有収率ですが、3分の1くらいが漏水等ということですが、令和元年度の63.82%というものが、数字的にこんなものかというのか、あるいは非常に効率が悪いと考えておられるのか。

篠田課長 63.82%ということは、残った水量はお金になっていない。水道課としてはもったいないと考えております。それに対しては毎年、漏水調査をコンサルタントに委託して実施しています。都会では夜間ですが、関では騒音がないため昼間に行っております。漏水は見つけ次第、修理を行っております。何分にも管が古いものでして、この資料では令和元年度ですが、直近の令和2年度では2%くらい有収水率が上がっており、成果が出ているのでなるべく多く漏水調査を行うように進めています。今後はなんとか70%を超えるように努力してまいります。

会長 70%を目標とおっしゃられておりますが、具体的にはどのような事業を行っているのですか。

篠田課長 建設改良として漏水管対策事業を行っております。昔埋設した石綿管といった古い管が市内のところどころに埋まっております。石綿管は漏水の主な原因となっているので、漏水管対策で耐久性の良い管に替えつつあります。ただ漏水管対策事業に追いつかない位、漏水が起きていますのでそういうところは応急的にその箇所だけ直すということを行っております。目標ですが、限りなく100%に近くを目標としておりますが、現実的に100%というのは難しいので、なるべく漏水のないように事業を行っているのが現状でございます。

会長 他にございませんか。

委員 漏水対策には資金が必要だと思いますが、それには最終的には水道料金の値上げもあるのではないかと思います。有収率などは他自治体などの状況から見てどのように会長は考えられますか。

会長 有収率は管が古くなれば低下することは他の自治体でも起きています。有収率を高めるためにはそれなりの投資が必要となります。漏水調査をしてひとつひとつ潰していくしかない。さきほどあげられた 7 割という数字はなんとなくそんなものかという数値ではあると思います。あと、水道事業の予算で不足しているという 10 億円くらいの資本的収支も減価償却費などの内部留保を使っているということで現状は大丈夫なのでしょうが、今後はどうするか、上水と下水を比べると下水の方が大変で何か手を打つ必要があるのではないかと。下水道は負担金・補助金を多く貰っているの、それを下水道使用料を増やしていこうというのは考えているのかなというところですか。これについては後半の下水道事業の経営戦略でも出てくるかなと思います。下水道事業については、負担金・補助金と下水道使用料との在り方を今後計画していく必要があるのではないかと思います。

水道事業について確認したいところがあるのですが、水道事業の一般会計補助金が 2 億円くらいあるのですが、どのようなものなのでしょう。

塚原課長補佐 一般会計補助金ですが、平成 29 年に地域の簡易水道を統合致しました。簡易水道は特別会計で運営され、補助で経営が賄われておりました。財源は地方債を使って行っておりましたので、起債残高が大変大きな状態で統合しました。その際、旧簡易水道を統合するまでの地方債残高については、償還利子及び元金の補填を一般会計からの繰入金で充てるという申し合わせを行っております。

会長 その分が支出では同じように上がっているということですか。

塚原課長補佐 資本的収支の支出の企業債償還金、収益的収支の支出の企業債利息のほぼ半額が簡易水道の分となっております。収益的収入の一般会計補助金と資本的収入の出資金が償還に充てられた分となっております。

会長 資本的収支にある 10 億円の不足は内部留保を充てているということですが、具体的にはあとどの程度持つというのでしょうか。

塚原課長補佐 令和元年度末現在の残高としましては、16 億円ほどありましてまだ賄える状況です。10 億円については消費税の資本的収支の分と収益的収支の利益分、積立金がありますので、何とか賄える状況です。

会長 これから老朽管の更新をしていくと留保金では心もとないという状況かと思えます。すぐに枯渇するという状況ではないが、いずれその時が来るので計画してやっていく必要があるという状況ではないかと思えます。

会長 ほかに質疑もないようですので、次の議事の審議事項について、説明をお願いします。

< 下水道事業・農業集落排水事業経営戦略 >

(経営戦略の説明)

船戸課長 それでは下水道事業の経営戦略の説明をさせていただきます。2冊になっておりますので、それぞれ説明をさせていただきます。

まず経営戦略ということですが、将来に渡って安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画です。国から策定の要請がありまして昨年から進めて参りました。期間としましては令和3年度から令和12年度の10年間としております。また、中間時点で見直しを予定しておりますが、そのほか毎年、進捗状況をご報告させていただきまして、必要があれば中間時点に関わらず見直しをさせていただきます。

経営戦略につきましては、この審議会で了解が頂けましたら、今後公表に向けて進めさせていただきたいと思っております。

1つ目の公共下水道事業ですが、3ページをお願いします。こちらは事業概要になっております。古くは昭和41年度から開始しておりまして、54年を経過しているところです。公共下水道事業には公共下水道と特定環境保全公共下水道が対象でして、全部で7か所の処理場を有しております。4ページにそれぞれの処理場について書かれておりますが、関というのが公共下水道でして、それ以外の6処理場が特定環境保全公共下水道でございます。

8ページですが、有水水量の予測ですが、平成29年度を起点として毎年0.63%ずつ減少するという形で下水道使用料の予測をしております。9ページからは現状の分析をしております。まずグラフの凡例ですが、青の棒グラフが当該団体値でして関市の値です。次に赤の折れ線グラフが国が人口密度、供用後年数などが類似した団体を類型化したもので、関市が所属する類似団体の平均値となっております。最後に括弧内の数値が全国平均の値となっております。

水洗化率ですが、令和元年度は公共下水道が99.17%、特定環境保全公共下水道が94.39%でして、どちらも類似団体、全国平均を上回る良好な数値となっております。

11ページからは経費回収率でして、使用料で回収すべき汚水処理の経費をどの程度使用料で賄われているかを表す指標ですが、関市は公共下水道が88.79%、特定環境保全公共下水道が71.61%でして、どちらも類似団体、全国平均を下回る数値となっております。

12ページからは汚水処理原価といって有収水量1m<sup>3</sup>あたりの汚水処理に要した費用ですが、公共下水道が131.79円、特定環境保全公共下水道が165.95

円となっております。こちらは類似団体、全国平均を下回る良好な数値となっております。このことから、使用料の低さが経費回収率の低さに繋がっていることが言えます。使用料で賄われない不足分については一般会計からの繰入金  
の補填に依存している状況です。

14 ページは、将来に渡って下水道事業に求められる役割を果たすための経営の基本方針を掲げております。基本方針は2点掲げております。1点は、「ストックマネジメントの考え方に基づいた管きよ・施設の更新」、2点目は、「管きよ・施設の更新需要に対応する財源の確保と経費回収率の改善」です。ストックマネジメントは、今後管きよ・施設の点検・調査を行い、改築・更新の必要性が高いものから優先的に投資を行う投資計画です。財源の確保については、使用料、企業債、繰入金、補助金がありますが、積算を適切に行い、更新の優先順位が高いものから順次行ってまいります。財源の確保については、使用料の見直しや経費の削減などの経営改善を取り組んでいくことを行っていきます。

15 ページは、投資・財政計画として、令和3年度から令和12年度までの計画期間で公共下水道と特定環境保全公共下水道を合わせた経費回収率を70%台で維持していくこと、また計画期間内に建設改良にかかる一般会計から損失補填としての繰入金をゼロにすることを目標として掲げております。ストックマネジメントでこれからの更新計画を出させていただきますが、投資を優先順位をつけて、また修繕により長寿命化させることで単年度あたりの工事費を平準化することで新規の企業債を抑えることで企業債残高を減らしております。企業債の償還金が減少することで建設改良にかかる一般会計からの繰入金を減らします。

工事費の平準化と企業債の償還金の減少により期間内に建設改良にかかる一般会計から繰入金をゼロにすることを目標として掲げてさせていただきました。

次に農業集落排水事業の経営戦略でございますが、流れは基本的に公共下水道事業の経営戦略と同じでございます。まず2ページ目ですが、事業概要です。古くは昭和61年度からで長いものは34年を経過しております。農業集落排水は規模的には小さく、地域ごとに21箇所処理場があります。8ページでは有収水量の予測を掲げております。公共下水道事業と同じく年0.63%減少するとの前提で使用料を予測しております。

次が現状分析ということで9ページから11ページまで説明させていただいております。水洗化率は令和元年度で94.71%、類似団体、全国平均を上回る高い水準を保っております。経費回収率については、29.04%で類似団体、全国平均から下回った数値となっております。汚水処理原価は412.68円で類似団体、全国平均を上回った水準となっております。こちらについては、地域ごとに多くの処理場を有してございまして、使用料の低さと併せて経費回収率の低さに繋がっているところでございます。

12 ページは経営の基本方針でございます。基本方針については公共下水道と同じストックマネジメントの考え方に基づいた「管きよ・施設の更新」と「管きよ・施設の更新需要に対応する財源の確保と経費回収率の改善」を掲げております。農業集落排水事業のストックマネジメントにつきましては、令和元年度と令和2年度で施設・設備の機能診断は終わっておりまして、令和3年度から、必要な更新を始めさせて頂いております。

13 ページの投資財政計画ですが、農業集落排水事業の経費回収率は30%あたりを推移しているところがございますので、何とかこの30%という水準は維持しながらこの期間で改善を進めていきたいというところがございます。また、基準外の一般会計の出資金を期間内にゼロにするという目標も公共下水道事業と同じく掲げております。

最後に経費回収率の改善についてでございますが、公共下水道事業、農業集落排水事業ともに経費回収率は低くなっております。公営企業としては100%の水準があるべき姿と言われておりますが、人口が減少する中でとりわけ農業集落排水事業についてこの数値を目指すのは困難な状況ではございます。使用料収入と一般会計からの補填である繰入金とのあるべき姿をどうするかは今後の審議会で諮っていききたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

(質疑応答)

委員 4～5年前に私どもの自治会内で下水道が逆流したということがございまして、対応していただいた中でカメラで下水道管の内部を見る機会がございました。古い管で内部に木の根っこがいっぱい入っている状態でそれが下水道が逆流した原因であったということでした。このような古い管については今後どのような改修計画になっているのでしょうか。

船戸課長 まだ計画についてはなんともいえない状況でございます。実際によく水がでる箇所は不明水の調査で把握しているもので、個々に修繕をしております。

委員 ということは、事後的にしか対応できないということですか。

船戸課長 年数を経過した管については調査の対象としておりますが、まだ年数を経過していない管については、個々に対応している状況でございます。

委員 その時に対応していただいた業者さんの話だとこんな管がまだ使っているのかということだったので、このようなことがどこで起きてもおかしくないと思えました。

参事 さきほど下水道課長が説明したことで、ストックマネジメントについては、管

きょ・施設の点検・調査を行い、法定耐用年数を超えている管きょ・施設の中でも、優先順位を定めて改築・更新を行うなど、従来の対症療法的な手法ではなく、施設が所定の機能を失う前に更新する予防保全の考え方で行うものです。現状は公共下水道事業についてはストックマネジメントの策定をこれから進めていく状況ですので、いまおっしゃられた事項につきましても、今後の計画に織り込まれてまいります。

会長 経営戦略には、ストックマネジメントの考え方でとか、計画期間に基準外の一般会計出資金をゼロにするとありますが、これらは計画期間である10年間の大きな方向性を打ち出したということで、具体的な計画が立てられれば、審議会に審議または報告があると考えてよろしいでしょうか。

船戸課長 現段階での数値を今回の経営戦略に入れさせていただきましたが、今後必要があれば見直しをさせていただきます。毎年の進捗状況は報告させていただき、これ以外にも具体的に進めることがあればご相談させていただきたいと思っております。

会長 他に質問がないようですので、こちらの事項は審議事項となっていることから、採決をさせていただきたいと思えます。「公共下水道事業及び農業集落排水事業の経営戦略」の案について賛成の方は挙手をお願いします。

(7名中7名の賛成の挙手を確認)

会長 ありがとうございます。挙手多数のため、「公共下水道事業及び農業集落排水事業の経営戦略」案は原案のとおり可決されました。

<その他の事項>

司会 次回の審議会の開催時期でございますが、次回の審議会は、今年度の11月頃に開催させていただきたいと考えております。具体的な期日につきましては、後日調整させていただきたいと思えます。

会長 次回の審議会は、今年度の11月頃に開催させていただきたいということですが、いかがでしょうか。

(一同、異議なし)

会長 ありがとうございます。それでは、次回の審議会の開催時期については、事務局の提案のとおりとさせていただきたいと思えます。そのほか、何かありましたらお願いいたします。

委員 実家が上之保にあるのですが、空き家状態で年に月1～2回帰る状況ですが、下水道料金は高いのですが、何か良い方法はないでしょうか。

塚原課長補佐 ご指摘いただきました点につきましては、契約休止の手続きしていただければ料金はかからないようになっています。水道お客様センターにお電話にてご連絡頂ければ、容易に手続きができます。

委員 ときどき草刈りにいくので、休止・開始の手続きが間に合わないとな不便なので休止していないのが現状です。

委員 さきほどの経営戦略案については、いかに施設を更新して借金を減らすということを目指しているということですね。汚水処理の精度をあげるということではなく、多くの施設があり改修をしなければならず、どのように改修をしているかということが主たる目的であるということですね。これを読むと国や県からの補助等があり、また今後30年40年後とこれらの更新はできるということですね。

部長 この場で諮った経営戦略があるほかに、ストックマネジメント計画、修繕計画を今後立てていく予定であります。国の補助などを利用しながら計画を遂行していきますが、長期的には料金についてもあわせて将来に向けて考えてまいります。

委員 漏水についてですが、市民生活に対して危険な箇所はあるのですか。

篠田課長 そこまでの状態のところはないです。

委員 倉知地区ですが、また管がパンクしてひんぱんに工事をやっているという印象はある。

篠田課長 水道ですと管が古くどこかで水がもれている箇所があり、また夏場ですと皆さんが水をたくさん使われますので、漏水が増えている状況です。その都度対応している状況です。

委員 その中で70%を目指しているのですね。

篠田課長 はい

会長 これで、議事をすべて終了しましたので、進行を事務局に戻します。



司会 本日は、慎重なご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。本日は、これもちまして、閉会とさせていただきます。